

ICD-11 V 章の生活機能の既存統計への活用に関する研究

「令和4年全国在宅障害児・者等実態調査」を例に

○ 帝京平成大学 高橋秀人(008634)

大冢賀政昭(国立保健医療科学院・006668), 重田史絵(立教大学・007279)

キーワード: ICD-11 V 章, WHODAS2.0, 令和4年全国在宅障害児・者等実態調査

1. 研究目的

ICD-11は2019年5月のWHO総会で採択された。ICD-11において疾患と機能とのリンクの観点から新設されたV章は、WHO障害評価面接基準(WHODAS2.0)、モデル障害統計(Model disability survey:MDS)、一般的機能の構成要素から構成されている(重複項目あり)¹⁾。この考え方の本質は、生活機能と死因・疾病統計を結びつけることであり、ICD-11に基づいて疾病分類が進めば、調査や統計において「生活機能」に関する情報を抽出できれば、その対象者について「生活機能」との関連を通して、現在、将来の疾病や死因、等を予測が可能になることが期待される。本研究は「令和4年全国在宅障害児・者等実態調査(生活のしづらさなどに関する調査)」を例に、ICD-11V章、ICFおよび、WHODAS2.0(36項目版)、WHODAS2.0(12項目版)により、どの程度「生活機能を抽出しているか」を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

ICD-11 V 章に収載される「生活機能」項目を確認し、「生活のしづらさなどに関する調査」(生活機能に関する項目:問15²⁾)「最近の日常生活を送る上での生活のしづらさはどのようなものですか。①～⑬の設問のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください」1 食事をする,2 食事の支度や後片付けをする,3 衣服を着たり脱いだりする,4 排せつをする(トイレを使えるなど),5 入浴をする,6 家の中を移動する,7 身の回りの掃除、整理整頓をする,8 洗濯をする,9 買い物をする Doing housework,10 お金の管理をする,11 薬の管理をする,12 自分の意思を伝える,13 相手の意思を理解する、を用いて ICD-11V 章、ICF のそれぞれの概念との対応、および、WHODAS2.0 (36 項目版)、WHODAS2.0 (12 項目版)との対応を「見える化」した。

3. 倫理的配慮

本研究は、研究の全過程、成果の公表において 社会福祉学会の定める「研究倫理規程」を順守して実施された。利益相反について、開示すべき COI 状態はない。本研究は共同研究であり、「研究発表の要旨集掲載原稿」への投稿内容について、共同研究者の承諾を得ています。

4. 研究結果

「生活のしづらさなどに関する調査」（生活機能に関する項目）問15とICD-11V章の概念との対応、および、ICF, WHODAS2.0(36項目版), WHODAS2.0(12項目版)との対応を表にまとめた。

「生活のしづらさ調査」問15の13項目とICD-11V章、およびICF対応がとれているが、WHODAS2.0(36項目版)は「食事の支度やあと片付けをする」とは対応しなかった。WHODAS2.0(12項目版)とは対応が限定的(「生活のしづらさ調査」3とD32「自分で服を着る」、5とD31「全身を洗う」、10とD51「家庭で要求される作業を行う」)であった。

R4_生活のしづらさ調査(生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅障害児・者等実態調査))

質問番号	本問	補問	調査項目	ICD-11V章項目	ICF	WHODAS2.0 (36-item version)	WHODAS2.0 (12-item version)
			【日常生活のしづらさに関する質問です。】				
問15			最近の日常生活を送る上での生活のしづらさはどのようなものですか。①～⑩の設問のそれぞれについて、あてはまるもの1つに○をつけてください。				
		1	食事をする	VD22 食べる	d550 食べる	D3.3 食事をする	
		2	食事の支度や後片付けをする	VD40 家事を受け持つ	d630 調理		
		3	衣服を着たり脱いだりする	VD21 更衣	d540 更衣	D3.2 自分で服を着る	D3.2 自分で服を着る
		4	排せつをする(トイレを使えるなど)	VD23 日課の遂行	d530 排泄		
		5	入浴をする	VD20 自分の身体を洗う	d510 自分の身体を洗う	D3.1 全身を洗う	D3.1 全身を洗う
		6	家の中を移動する	VD12 自宅内の移動	d4600 自宅内の移動	D2.3 家の中で動き回る	
		7	身の回りの掃除、整理整頓をする	VD42.Z 家事を行う	d640 調理以外の家事		
		8	洗濯をする	VD42.Z 家事を行う	d640 調理以外の家事		
		9	買い物をするDoing housework	VD23 日課の遂行	d470 交通機関や手段の利用		
		10	お金の管理をする	VD40 家事を受け持つ	d640 家庭で要求される作業を行う	D5.1 家庭で要求される作業を行う	D5.1 家庭で要求される作業を行う
		11	薬の管理をする	VD23 日課の遂行	d570 健康に注意すること		
		12	自分の意思を伝える	VD05 会話	d350 会話	D1.6 自ら会話を始めたり続けたりする	
		13	相手の意思を理解する	VD04 話し言葉の理解	d310 話し言葉の理解	D1.5 みんなが言っていることを普通に理解する	

5. 考察

「生活のしづらさ調査」問15の13項目から「生活機能情報」を抽出することについて、「生活のしづらさ調査」を考えた場合、ICD-11V章、ICFではすべての項目、WHODAS2.0(36項目版), WHODAS2.0(12項目版)ではそれぞれ7/13, 3/13対応が果たした。ICD-11V章, ICFに対し、WHODAS2.0においても、限定的ではあるが、対象者の現在、今後の疾患罹患、死因状況の予測につなげることができるのではないかと考える。

6. 参考文献

- ICD-11 for Mortality and Morbidity Statistics (Version : 01/2023),
<https://icd.who.int/browse11/1-m/en#/http%3a%2f%2fid.who.int%2fid%2fentity%2f231358748>
- 「生活のしづらさなどに関する調査」（生活機能に関する項目）R4年度調査 調査票,
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/seikatsu_chousa_r04.pdf